

輔仁大學教授王瑾潤編著

日語常用成語例解

日本語から中國語への翻譯例解
—中國語を學ぶ人へ

輔仁大學教授王瑾潤編著

日語常用成語例解

日本語から中國語への翻譯例解
—中國語を學ぶ人へ

中華民國五十七年二月初版
中華民國七十年四月二十日六版

日語常用成語例解

精裝定價一〇〇元
平裝定價八〇〇元

著者：王瑾

潤

編著者：宏業書局有限公司
發行人：戴周

地址：台北市重慶南路一段七十一號

行政院新聞局局版台業字第〇七七一號
郵政劃撥戶第六六一七號
電話：三三一八九三〇號

印 刷 者：遠大印刷有限公司
地 址：台北市武成街35巷16弄15號

版權所有
翻印必究

卷首語

學習日本語到一定的程度時最感困難的是甚麼？我相信有這種經驗的人士一定會毫不遲疑地說：「成語！成語！日本的成語！」的確，一點都不錯！是日本的成語。因爲這種成語，儘管看得懂，也能讀，但是只憑表面似是而實非的意思是無法可以解釋得通的。雖然在各種日華辭典裏偶而也會出現一些成語，但其注釋大都過份簡略，語焉不詳，不容易獲得滿意的解答，至於如何使用，那就更不用說了！

著者爲了對於學習日本語文人士便利研討，期使學者明瞭各種日本成語之真正語意，進而得以熟諳它的用法起見，特把平時從日本文學作品，報章雜誌以及日常會話中所蒐集的此種成語，分別詳加精選，整理註解，並逐一附以一或兩個例句。幾經考訂，最近終告完成。現將其中最常用的一千餘則先行出版，定名：「日語常用成語例解」。祇因著者爲人手所限，遺珠在所難免，倘承方家指正，那正是著者非常企望與感謝的了！

王瑾潤

留學日語會話大全 夏秋雲教授合著

宏業書局出版

精裝定價 100元

必備

郭宗賢

一、本書共分四篇，共三百九十頁，第一篇發音，第二篇初步問答，第三篇會話，第四篇單語，由淺入深，循序漸進，極便記憶。

二、本書第二篇初步問答，係以日常習用之單語爲準。對於重要動詞之用法及變化，啓示門徑，期使學者易於領悟。

三、本書第三篇會話，總計四十餘課，舉凡海關，火車、飯車、旅館、購物、問道、訪問各項，應有盡有，語極生動實用，絕無籠統呆滯之弊。

四、本書爲求增加學者活用日語範疇，特於第三篇會話每課之後，附有同類語多條，俾學者得以觸類旁通，藉收多方面實用之效。

五、本書譯語，概用通白話，不尚文采，但求簡潔實用。

六、本書儘量多用漢字，俾便記憶。

言文 日本文語文法（自修適用） 王瑾潤編著

宏業書局出版

定價100元

不錯！一點也不錯！現代的日本文是「口語體」，已經不是「文語體」。但是「文語體」是不是完全成了陳腐的，無用的，時代落伍的東西，而與文字絕緣了呢？事實上却又不然！我們翻開日本的報紙可以看到許多文語的標題，如：「幕内つい全勝者なし」；「若の花優勝す」等等。日本小說與電影也有：「望みなきにあらず」；「野菊のごとき君なりき」；「日本かく戦えり」等之題名。至於日本的俗語或諺語裏更充滿：「已の欲せざる所は人に施す勿れ」；「過ぎたるは猶及ばざるが如し」；「即かず離れず」等非口語體的文言。所以想精通日本語文，日本文語也非懂不可。而這本「言文對照日本文語文法」就是研究日本文語最好的工具。

日語文法精粹

（日語華譯公式）

王瑾潤 售

定價 55元

本書為久已膾炙人口之日本口語文法之姊妹篇。係採用科學方法廣事搜羅日常習用之語，報章常載之句，歸納整理，根據文法逐一列舉公式，簡明實用，系統井然，既便記憶又易模仿，談話作文均可依式套用，閱報翻譯亦可藉以正疑，有志學習日語者，尤宜人手一冊。

詳解 日本口語文法（最新標音） 王瑾潤編著

正中書局出版本局代售

本書共五百六十二頁，約二十餘萬言，內容豐富，條理清楚，解釋切當，舉例實用，可供學校課本或參考之用。其有志於學習日語而無入學機會者，用以自修尤為適當！

あ之部

當が外れる	七	當になる（當にする）	七	當が外れる	七
逃え向	十三	當になる（當にする）	十三	後始末をする	十三
案の定	一	當になる（當にする）	一	胡坐をかく	十三
朝飯前	一	當になる（當にする）	一	胡坐をかく	十三
あらぬ	一	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
頭を賣る	一	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あらわす	一	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
頭割にする	一	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あたまわり	一	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
邊り構わず	二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あたまがま	二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
合い鎌を打つ	二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
ありがち	二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
有勝（な）	三	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あひがち	三	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
味氣なく暮らす	四	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あひけ	四	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
呆氣に取られる	五	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あひか	五	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
扱いにする	六	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あおりく	六	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
燶を食う	六	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あかぬけ	六	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
垢抜	六	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あらを探す	十二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あきらか	十二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
諦めが付かない	十二	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
あたまさ	十八	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三
頭を下げる	十八	當になる（當にする）	一	當になる（當にする）	十三

頸が干上る	十八	赤恥をかく	廿三
頤で人を使う	十八	赤の他人	廿四
頸を外す	十九	揚足を取る	廿四
頸が落ちる	十九	邊りに氣を配る	廿五
足が棒になる	二十	後廻	廿五
足本にもよれない	二十	青菜に鹽	廿五
足が付く	廿一	あけすけに言う	廿六
足を洗う	廿一	如何せん	三十
足を出す	廿二	一杯喰う	三十一
足搔が取れない	廿二	言うに言われない	卅一
明を立てる一明が立つ	廿三	入れ替り	卅一
青竹を破つた様に	廿七	入智慧をする	卅二
悪錢身に付かず	廿七	一も二もなく	卅二
意氣地無い	卅三	世二	世三

い之部

足手纏
阿漕
廿八
廿九

色目を使う
如何せん
一杯喰う
言うに言われない
入れ替り
入智慧をする
一も二もなく
世二
世三

要らぬ所へ口を出す

卅三

言わん方ない

卅四

一か八か

卅四

一生懸命

卅四

糸口が付く

卅五

犬死をする

卅六

一點張り

卅六

命に障る

卅六

言掛を付ける（云う）

卅七

一役買つて

卅七

否應無しに

卅八

何時の間にか

卅八

3

生寫し：四二
命懸（命を懸ける）

痛手を負う

卅八

板挟になる

卅九

否味を言う

四十

いざと言う場合

四十

いざ知らず

四十

鴉の嘴と喰違う

四一

意地を張る

四一

唯み合

四二

命の親

四二

命の洗濯

四二

命：四二
息が切れる（息を切る）

四五

至れり盡せり

四六

犬と猿

四六

息を付く	四六
息を吹き返えす	四六
息が通う	四七
息の下 <small>した</small>	四七
命を削る	四八
好い（よい）加減	四八
居候をする	四九
居丈高になる	四九

う之部

浮かない顔をする	五十
内辨慶の外すばみ	五十
瓜の蔓に茄子はならぬ	五十一
裏をかく	五六
腕がある	五七
馬の耳に念佛	五七
内輪	五八
打ち明ける	五八
打ち解ける	五九
現を拔かす	五九
有無を言わせず（有無を	五四

内胄を見透す	五五
内股膏薬	五五
有頂天	五六
内輪揉	五六
後髪に入る	五三
髪を引かれる	五四
腕を磨く	五四
有無を言わせず（有無を	五四

言わずに）	六十	運次第	六五
浮ぶ瀬がない	六十	嘘をつく	六五
後指を指される	六一	請賣り	六六
打合せをする	六一	内を外にする（内を外に	六七
打ち切り	六二	して遊ぶ）	六七
自惚れが強い	六二	腕が鳴る	六七
自惚れる	六二	腕に覚えがある	六七
噂をすれば影	六三	依怙贔屓	七十
上邊の愛想	六三	選嫌をする	七十
有耶無耶	六四	恵比壽顔	七十
裏切る	六四	得手勝手	六九
賣れつ子	六五	得たり賢し	六九

え之部

運次第	六五	得手勝手	六九
嘘をつく	六五	得たり賢し	六九
請賣り	六六	恵比壽顔	七十
内を外にする（内を外に	六七	得手勝手	六九
して遊ぶ）	六七	得たり賢し	六九
腕が鳴る	六七	恵比壽顔	七十
腕に覚えがある	六七	得手勝手	六九
依怙贔屓	七十	得たり賢し	六九
選嫌をする	七十	恵比壽顔	七十

お之部

選嫌をする	七十	得手勝手	六九
恵比壽顔	七十	得たり賢し	六九
得手勝手	六九	得たり賢し	六九
得たり賢し	六九	得手勝手	六九
恵比壽顔	七十	得手勝手	六九
得手勝手	六九	得たり賢し	六九
得たり賢し	六九	得手勝手	六九
恵比壽顔	七十	得手勝手	六九
得手勝手	六九	得たり賢し	六九

6

押が強い	七二	思の外	七七
おべつかを使う	七二	沙汰にする	七八
お茶を磨く	七三	思表當る	七九
御決文句	七四	切つて	七九
御茶を濁す	七四	おまけ	八十
大袈裟に云う	七五	おまけに	八十一
臆病	七五	お目に掛る	八一
大目に見る	七五	お目に掛ける	八一
思切りが好い(悪い)	七六	壓石が利く	八六
及ぶ限り	七七	大風呂敷を擴げる	八七
思を晴らす	七七	思わしくない	八八

思の存分	七七	大向を喰らせる	八三
思の外	七八	大童になつて	八四
沙汰にする	七八	お爲ごかしを言う	八四
思表當る	七九	おせつかい	八五
切つて	七九	後を取る	八五
おまけ	八十	喰氣にも出さない	八六
おまけに	八十一	おもじ	八六
お目に掛る	八一	壓石が利く	八六
お目に掛ける	八一	大風呂敷を擴げる	八七
思わしくない	八八	思わしくない	八八
思いも寄らなかつた	八八	思いも寄らなかつた	八八

大向を喰らせる	八三	おおむこううな	八三
大童になつて	八四	おおわらわ	八四
お爲ごかしを言う	八四	おたみ	八四
おせつかい	八五	あくね	八五
後を取る	八五	あくね	八五
喰氣にも出さない	八六	おぐい	八六
おもじ	八六	おもじ	八六
壓石が利く	八六	おおむかろしき	八六
大風呂敷を擴げる	八七	ひろひろ	八七
思わしくない	八八	ひろひろ	八八
思いも寄らなかつた	八八	ひろひろ	八八

大びらにする	八九
大詰	九〇
折よく	九一
おつちよこちよい	九二
奥の手	九三
お眼鏡に叶う	九四
おやつはすねに思ふ	九五
親の脛を噛る	九六
お手の物です	九七
折も折とて	九八
折が有り次第	九九
折合が付く	一〇〇

か之部

尾に鰭をつける（尾に尾	九一
男をつける）	九二
岡目八目	九三
男優り	九四
男を上げる（男を下げる	九五
勘當する	九六
我を通す	九七
我を代る代る	九八
癪癩を起す	九九
考え物だ	一〇〇

かぶりを振る	九一
笠に着る	九二
片端から	九三
好都合	九四
加減が悪い	九五
加勢を送る	九六
天下	九七
外聞に係る	九八
我を折る	九九
か	一〇〇

影が薄い	一〇二
陰口をきく	一〇三
我を張る	一〇三
數ならぬ身	一〇四
肩で風を切つて歩く	一〇四
片意地を張る	一〇四
替玉を使う	一〇五
顔に泥を塗る	一〇六
顔を潰す	一〇七
我慢して	一〇七
顔を立てる	一〇七

空元氣を出す	一〇八
考えが淺い	一〇八
堪忍袋の緒が切れる	一一一
片付く	一〇九
合點が行かない	一一〇
肩を持つ	一一一
肩身が狭い（肩身が廣い）	一一一
片手落	一一一
搔廻す	一一一

肝腎	一一三
考えを極める	一一五
顔向けが出来ない	一一五
顔に免ずる	一一六
甘言に乗る	一一六
搗て加えて	一一六
勘定	一一七
金が有つたら生かして使ふ	一一七

氣骨が折れる	一一八	一七	外面如菩薩内心如夜叉
氣を張り詰める	一一九	一一八	氣を張り詰める
義理を立てる	一二〇	一一九	義理を立てる
氣に入れる	一二一	一一八	氣に入れる
氣に回る	一二二	一一七	氣に回る
氣を配る	一二三	一一六	氣を配る
氣前が良い	一二四	一一五	氣前が良い
氣が滅入る	一二五	一一四	氣が滅入る
氣丈夫	一二六	一一三	氣丈夫
氣が減入る	一二七	一一二	氣が減入る
氣が觸れる	一二八	一一一	氣が觸れる
氣が早い	一二九	一一〇	氣が早い
行儀が好い	一二〇	一一九	行儀が好い
氣が小さい	一二一	一一八	氣が小さい
生一本	一二二	一一七	生一本
氣軽	一二三	一一六	氣軽
氣に喰わぬ(ない)	一二四	一一五	氣に喰わぬ(ない)
氣受けが良い(悪い)	一二五	一一四	氣受けが良い(悪い)
氣に障る	一二六	一一三	氣に障る

氣懸り	一三四
氣が氣でない	一三五
氣が抜ける	一三五
氣が付く	一三六
氣が進まない	一三六
氣を呑まれる	一三七
氣兼する	一三七
氣にかかる（氣にかける）	一三八
氣を廻す	一三九
氣が弱い	一三九
氣を付ける	一三九

氣が遠くなる	一四〇
氣が重い	一四二
氣後れ	一四二
氣にする（氣になる）	一四二
氣を悪くする	一四七
氣がある	一四七
氣取る	一四八
器量が良い	一四八
器量を下げる	一四九
氣嫌を取る	一四六
氣嫌が好い（氣嫌が悪い）	一四一
氣嫌をなおす	一四五

氣が合う	一四六
氣嫌を取る	一四六
氣嫌が好い（氣嫌が悪い）	一四一
氣嫌をなおす	一四五
首にする（誠首になる）	一四五
之部	一四六
器量が良い	一四八
器量を下げる	一四九

繰り上げる	一四九
食べない奴	一五〇
苦もなく	一五一
繰り返す	一五二
句切を付ける	一五三
草臥が抜ける	一五四
下らない（こと）	一五五
工夫を凝す	一五六
口を掛ける	一五六
口を叩く	一五六
口に合う	一五六

口を切る	一五六
口を滑らす	一五七
口が軽い（重い）	一五八
口を揃えて（云う）	一五九
口が（と）違う	一五九
口の端に掛る	一六〇
暮しが好い（暮しが立つ）	一六一
暮しが好き（暮しが立てる）	一六二
口真似をする	一六三
口の端に掛る	一六四
口が（と）違う	一六四
口を探す	一六四

口を利く	一六三
口喧しい	一六三
口から出任せ	一六四
暮しが好い（暮しが立つ）	一六四
暮しが好き（暮しが立てる）	一六五
、暮しが立つ	一六五
火事場泥棒	一六六
喰違	一六六
口先上手	一六六
口腐つても鯛	一六七
限なく	一六七